日刊工業新聞
年月日 10 02 25
ページ 35
NO.

地域を守る／地域に貢献する

□ 東京都市大学 □

子育て支援センター開設／１万3000組以上利用

東京都市大学人間科学部（東京都世田谷区）のキャンパスにある子育て支援センター「ぴっぴ」は、旧武蔵工業大学と統合する前の東横学園女子短期大学（2010年３月閉校）が「地域に根ざした親子の集いの広場」を目指し、04年６月に開設した。

以後１日平均50―60組、開設からは１万3000組以上が利用し、地域にとって不可欠な存在となっている。「楽しいし心が温まる」との利用者の評判は口コミで広がり、友達がまたその友達を誘って利用することも多い。また、世田谷区民に限らず誰でも利用できるため、電車やバスを乗り継いで遠方から来る利用者もいる。

ぴっぴは、決して子どもを預ける施設ではなく、あくまで保護者と子どもが互いにのんびり楽しむ場所。従って、常駐する保育士は、子どもに対して必要最低限以外のことには手を出さず、手を出す場合でも、まずは保護者に声をかけ、見守ることを通している。

東京都市大学が運営している子育て支援センター「ぴっぴ」

開設に当たって中心的な役割を担った小川清美教授は「親御さんが安心して子育てできるきっかけを作りたかった」と振り返る。昔に比べ近所付き合いが希薄になったと言われるが、「子育てについて誰にも相談できず一人で悩む母親をなくしたいとの思いもあった」（小川教授）という。

また、ぴっぴは同学部児童学科の卒業要件にある「子育て支援演習」の実演舞台にもなっている。学生は２時間ごとに室内に入り、保育士と一緒に利用者を見守る。「初めは緊張して気分が悪くなる学生もいるが、慣れてくると母親と気軽に話すことができて自信につながっている」（同）と話す。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社